


令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び  
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成  
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築  
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成  
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【群馬県立安中総合学園高等学校】

|                    |  |
|--------------------|--|
| 1 実践テーマ            | ①・Ⅱ ③・Ⅳ ⑤（複数選択可）   |
| 2 実施対象者<br>（学年・人数） | 生活文化系列福祉系<br>3年 14名 2年 14名 1年 14名<br>スポーツ健康系列<br>3年 16名  |
| 3 展開の形式            | （1）学校における活動次の5つの中から選択し〇をつけてください【複数選択可】<br>① 教科名（福祉系：介護福祉基礎・介護実習・総合研究<br>スポ健：生涯スポーツ）<br>② 行事名（ ）<br>③ その他（ ）<br>（2）地域における活動<br>① イベント名（ ）<br>② その他（ ）   |
| 4 目標<br>（ねらい）      | ①オリンピック・パラリンピックの意義や歴史等の基礎知識を学び理解を深め、オリンピック・パラリンピックへの興味関心を高める。<br>②オリンピック・パラリンピックの視聴や、競技・選手紹介スライド作成、パラリンピック競技種目である「ボッチャ」体験等を通して選手の競技力や競技に対する思い等を知り、障がい者スポーツ・障がい者への理解を深めるとともに、共生社会のあり方について考える。                                       |
| 5 取組内容             | ○パラリンピアンからバリアフリーを考える<br>国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を活用し、「車いすで生活しているパラリンピアンの方に来校してもらい、福祉室で講演してもらう」という設定で、グループごとに校内のバリアについて調査・検討を行い、発表した。<br> |



※グループ活動を行い、発表した様子



### ○ボッチャ体験

パラリンピックを観戦する前に、ルールやコート、使用する道具等の確認等を行った。2学期には対戦形式で体験を行った。学年末には2、3年合同で系列内ボッチャ大会を計画中。



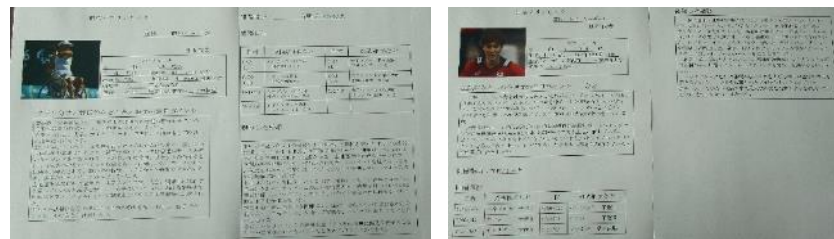
### ○オリンピック・パラリンピックを視聴し、競技紹介・選手紹介のレポートやスライドを作成し発表する

興味関心を持った競技、注目選手の紹介、感想等をスライドやレポートにまとめて発表した。

<発表スライド例>



<レポート例>



※12月から系列選択した1年は、冬季パラリンピック競技のルールや注目選手をグループで調べ、発表した。

今後パラリンピックを視聴した感想を発表する予定。



## 6 主な成果

「パラリンピアンからの日常生活からバリアフリーを考える」では、生徒達は実際に車いすに乗って玄関の広さや扉の形状、スロープの傾斜角度や強度、受付をする事務室の窓口、トイレの広さ

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
|                                 | <p>や階段の移動方法等について活発に意見交換し、障がい者の生活やバリアフリーについて考えることができた。発表の中では、2階の福祉室ではなく、移動しやすい1階や体育館に会場変更する提案もされ、共生社会のあり方を考える機会になったと感じる。</p> <p>また、夏季オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、福祉系での授業の他に、他系列でもオリンピック・パラリンピックの意義や歴史等についての学習を行い、興味関心を持たせるとともに、視聴観戦後の課題提出を行った。生徒のレポートや発表等から、オリンピック・パラリンピックの高い競技力や競技に取り組む姿勢・思い、仲間との団結力等を知り、多様性を尊重することや、諦めずに継続して物事に取り組むことの大切さ等を実感したことが感じられた。特に、部活動で中心となって活躍しているスポーツ健康系列の生徒達は、今までの自分の生活を振り返り、日頃の練習や競技に取り組む姿勢、仲間とのコミュニケーションの取り方やプレー中の声のかけ方等を感じたことを生かしているようである。</p> |
| <p>7実践において工夫した点<br/>(事業の特色)</p> | <p>本校は総合学科で、系列別授業が行われている。昨年度は福祉系のみでオリンピック・パラリンピックに関する授業を実施していたが、今年度はスポーツ健康系列でも取り組み、他系列教員間での情報交換ができた。</p> <p>興味関心をもって観戦することができるようにオリンピック・パラリンピック開催前後に関連した授業を行った。生徒は調べ学習や課題作成を通し、自分の生活を振り返り、共生社会のあり方等について考える機会となった。</p>   |
| <p>8主な課題等</p>                   | <p>福祉系では、例年であれば高齢者福祉施設での実習を行ったり、地域のイベントにボランティアとして参加している。これらの活動では、異年齢の方々や介護が必要な高齢者や障がい者の方々と触れ合うことができ、共生社会のあり方について考える機会となる。昨年から新型コロナウイルス感染症予防のため実施することが出来ないが、これらの実践が生徒の考え方や行動に大きな影響力を与えると感じるので、早く今までのような取り組みが出来ると良い。</p>  |
| <p>9来年度以降の実施予定</p>              | <p>今年度実施したことは両系列で今後も継続する予定である。スポーツ健康系列と福祉系での系列対抗ボッチャ大会を計画している。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症が終息に向かえば、地域の高齢者福祉施設でのレクリエーションにボッチャ大会を提案したり、地域イベントでボッチャ体験コーナーを設置し、多くの方々にボッチャを広める活動をしていきたい。</p>  |